

平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	グローバル人材養成プログラム in 野辺山 ～学生の内向き志向の打開を目指して Part2～	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	農学部・食料生産科学科	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	神 勝紀・濱野光市(農学部・食料生産科学科・アルプス圏フィールド科学教育研究センター)	
取組の目標	南箕輪キャンパスおよび野辺山ステーションで開講している授業・実習に外国人学生を参加させ、本学科学生と合同で授業を受けさせることにより、以下のことを促す。 ・自発的な交流や支援活動が出来るようにする。 ・農畜産業に関する教育・研究をグローバルな視点から意識させる。 ・外国語学習意欲を高める。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	- カセサート大学(タイ)の学生7名を招聘予定で準備していたが、相手方大学の都合により来日できなくなったため、代わりとしてジャンビ大学(インドネシア)の学生を招聘した。ただし、インドネシアはタイよりも航空運賃が高かったため、3人しか招聘できなかった。 - 野辺山ステーションにおいて農業実習を行ったが、上記事情で開催時期が遅れたため、本学科学生との共同実習は実施できなかった。 - 南箕輪キャンパスでの授業は当初予定通りに実施できた。特にゼミでは活発な意見交換が英語で行われ、本学科学生に刺激を与えた。野辺山での共同実習の代わりに研究室訪問と研究体験を行って、将来的な研究交流の基礎が作られた。 - 農学部の国際交流活動(イングリッシュサロン、グローバルサロン)、日本人学生とのエクスカースションおよび食事会を通じて交流した。これらには合計40名以上の学生が参加し、英語によるプレゼンテーションや文化交流を行った。 - 中原寮に宿泊し、寮の学生と寝食を共にして交流を深めた。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	- 達成できた - おおよそ達成できた - 半ば達成できた - おおよそ達成できなかった - 達成できなかった	(そう評価する理由) 未達成:当初予定と異なったため、来日学生の人数が減少したことが未達成に相当する。 達成:野辺山ステーションにおける本学科学生との共同実習はできなかったが、研究室訪問と研究体験を行ったため、それに代わる収穫があった。また、今回の交流(特に研究体験)に参加した学生が、その後インドネシアで開催された国際学会に参加して再度交流を深める等、学生のグローバル意識が育っている。さらに、ジャンビ大学との間に交流協定が締結され、27年度には教員と学生の相互学術交流が行われることも重要な成果である。直接的な成果ではないかもしれないが、日本学生支援機構(JASSO)平成27年度海外留学支援制度(協定受入)に採択されており、これもこのような受入れ実績が評価された結果と思われる。
		(今後の展望) 学生関連:27年度はジャンビ大学、バングラデシュ農業大学(バングラデシュ)およびスラナリー工科大学(タイ)から、合計12名の学生が農学部を訪問し、本学部学生と共同で実習、授業、研究体験を行う予定になっており、学生の国際交流は顕著に促進されている。今後より多くの機会をつくって、農畜産業のグローバル化の本

		質について深く理解させたい。
--	--	-----------------------

教員関連: 上記と同時期に上記大学の教員も来日して(学生引率を兼ねる)、信大を含めて4カ国の国際畜産シンポジウムを開催するので、一層の研究交流が期待される。